

京都府漁海況情報

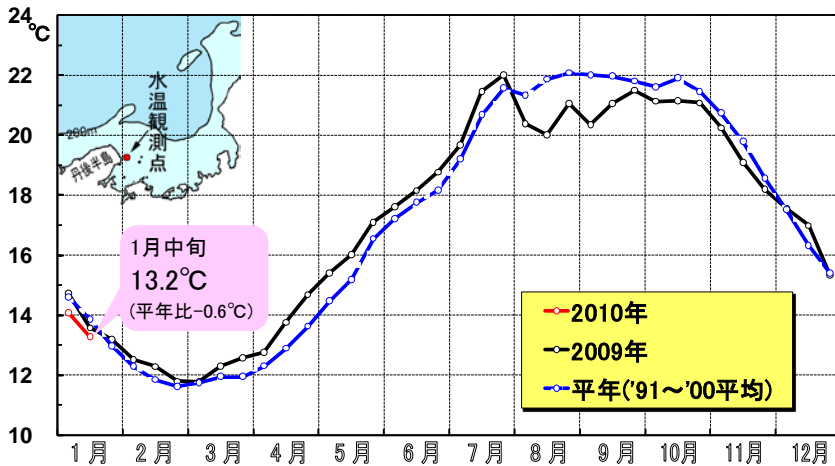
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況

【現況】

2010 年 1 月における京都府沿岸の表層水温は、平年よりもやや低めで推移しています。

伊根町新井崎地先の 50m 深水温



【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

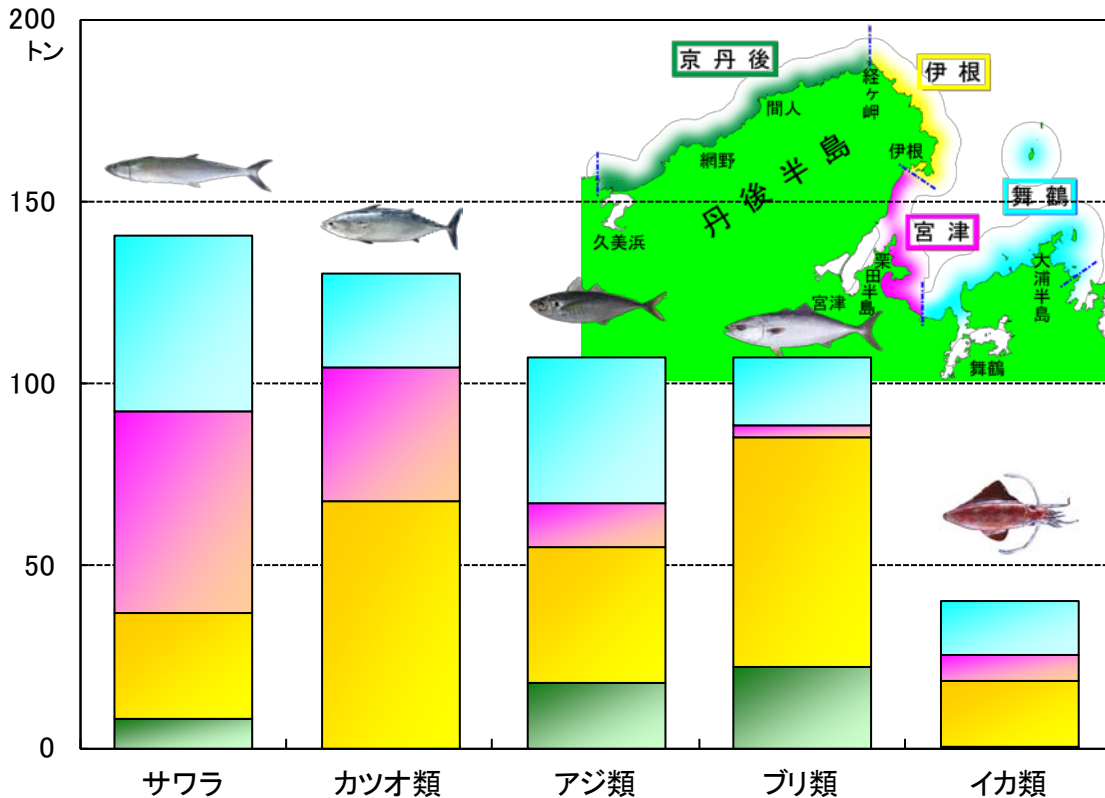
向こう 1 か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並み」で推移する見込み

漁模様 ～2009年12月～

【定置網漁業】

サワラやカツオ類、アジ類、ブリ類が主体で、全体では平年および前年並みの水揚げでした。

2009年12月の地域別漁獲量(上位5魚種)

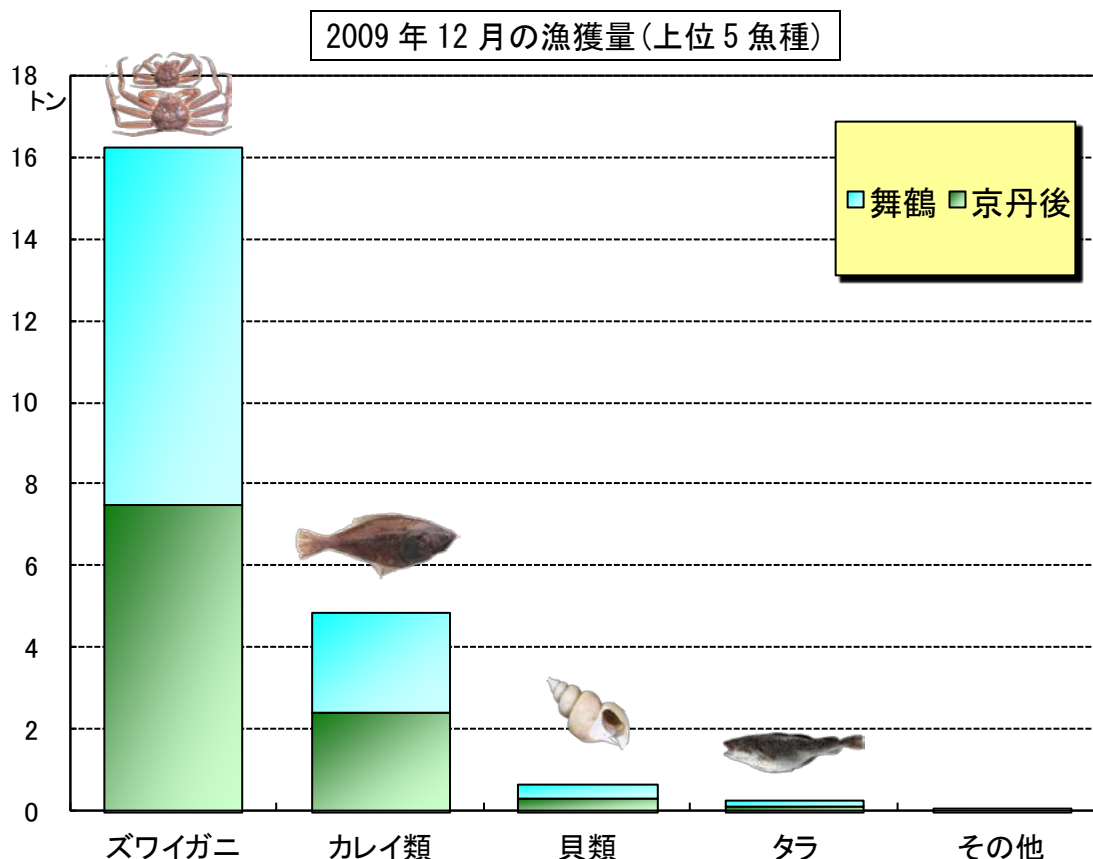


12月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考	
サワラ	140.9	208.1 (68%)	136.3 (103%)	<ブリ類> 尾さ長 35cm～40cm 台のつばす・はまち銘柄が7割弱、70cm～90cm 台(平均 9kg)のぶり銘柄が約3割、ほか 55～60cm 台のまるご銘柄が若干量でした。 <サワラ> 尾さ長 40cm～50cm 台のさごし銘柄が約9割、それより大型(尾さ長 60～70cm 級主体)のさわら銘柄が約1割でした。	
カツオ類(そうだがつお)	130.2	50.0 (260%)	101.8 (128%)		
アジ類	107.7	146.4 (74%)	103.5 (104%)		
ブリ類	107.3	147.7 (73%)	81.1 (132%)		
イカ類	40.4	37.9 (107%)	69.9 (58%)		
スズキ	22.5	26.7 (84%)	13.9 (162%)		
カマス類	19.1	45.9 (42%)	25.3 (76%)		
カタクチイワシ(たれ)	13.6	24.2 (56%)	44.8 (30%)		
ヒラメ	11.6	6.8 (171%)	7.8 (148%)		
サンマ	8.3	16.3 (51%)	11.8 (70%)		
その他	212.5	145.6 (146%)	193.7 (110%)		
合計	813.9	855.6 (95%)	789.9 (103%)		

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

ズワイガニは前年の8割および平年の7割強で、全体では平年の6割弱の水揚げでした。荒天日が多かったことや大型クラゲの大量出現で、例年より曳網回数が少なかったことが少漁の主な原因とみられます。



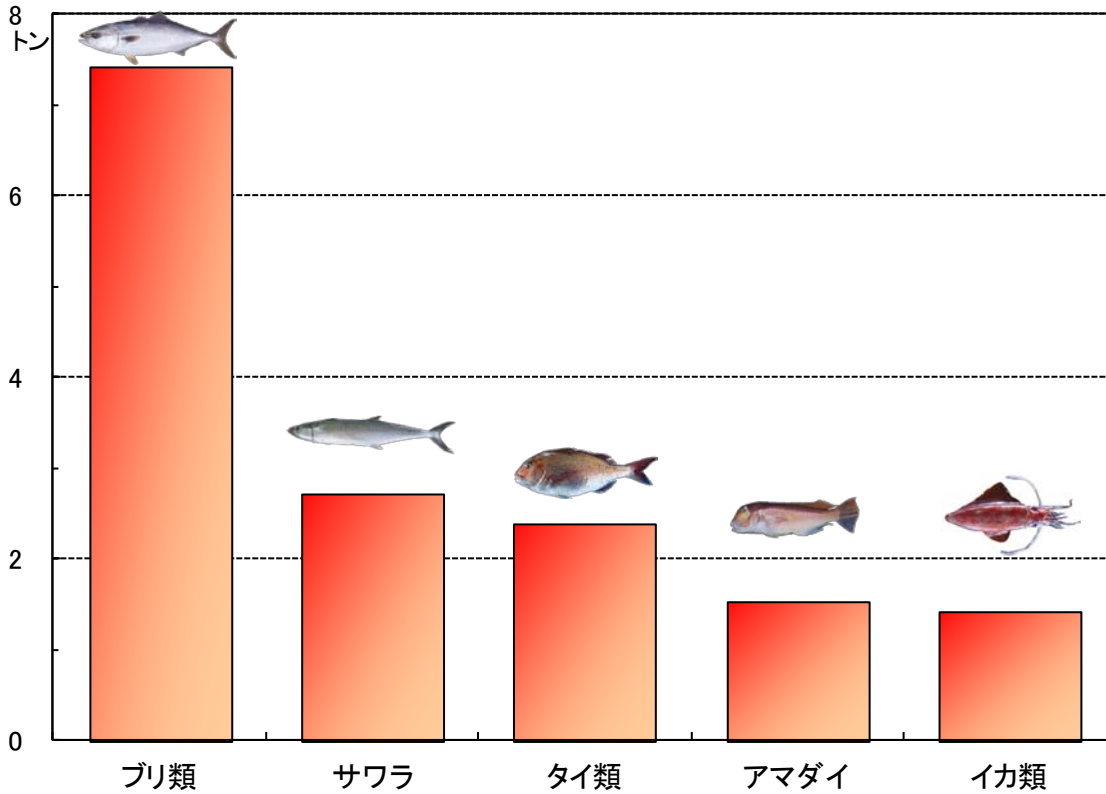
12月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
ズワイガニ	16.2	20.2 (80%)	22.1 (74%)	<ズワイガニ> オス(松葉がに)は9.0トン, メス(せこがに)は7.2トンでした。 <カレイ類> アカガレイ(まがれい)が3.4トン, ヒレグロ(黒がれい)が1.4トンなどでした。
カレイ類	4.9	21.3 (23%)	8.5 (57%)	
貝類	0.7	1.9 (38%)	1.3 (54%)	
タラ	0.3	0.4 (63%)	0.1 (323%)	
その他	0.1	1.7 (6%)	6.0 (2%)	
合計	22.2	45.5 (49%)	37.9 (59%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

アマダイやイカの釣獲が少なく、全体で平年の約7割の水揚げでした。

2009年12月の漁獲量(上位5魚種)



12月漁獲量(トン) 京都府漁連集計						
魚種	2009年	2008年(前年比)		平年(平年比)		備考
ブリ類	7.4	15.8	47%	6.7	111%	<ブリ類> つばす・はまち銘柄が 7.0 トン, まるご銘柄やぶり銘 柄が若干量でした。
サワラ	2.7	3.5	78%	2.6	104%	
タイ類	2.4	2.8	85%	2.2	108%	
アマダイ(ぐじ)	1.5	4.8	32%	3.8	41%	
イカ類	1.4	1.3	108%	6.3	22%	
アジ類	0.4	0.8	49%	1.7	23%	
メバル類(もいお)	0.3	0.3	91%	0.3	98%	
スズキ	0.2	0.1	141%	0.1	157%	
カツオ類	0.2	-	-	-	-	
ヒラメ	0.1	0.1	181%	0.1	118%	
その他	2.9	3.0	96%	4.5	64%	
合計	19.5	32.5	60%	28.3	69%	

平年は過去10年平均

【トピック ～リュウグウノツカイが出没～】

丹後の沿岸で昨年末以降、珍魚とされるリュウグウノツカイが度々定置網に入網したり、海岸に漂着したりしています。

この魚は、タチウオのような銀白色の長い体型に、赤くて一部長いひれを持つ派手な外見をしており、ふだんは深海に生息しています。これまでに確認した個体は全長5メートル以下ですが、大きな個体になると全長10メートルに達するようです。

同様の現象は、他県各地の沿岸でもみられるようで、富山県や石川県、福井県、鳥取県、長崎県などで新聞社が報道しています。

北からの季節風が強まるこの時季、沖合深層にすむ生き物が衰弱などの理由で沿岸に吹き寄せられる可能性はありますが、なぜこの冬にリュウグウノツカイが沿岸で度々見られるのか、謎は深まるばかりです。



2010年1月19日に定置網に入網した全長約2.8mの個体(栗田漁業生産組合 小田事業所提供)



(左)2009年12月23日に定置網に入網した全長約4mの個体(栗田漁業生産組合 田井事業所撮影)
(右)2010年1月4日に海洋センターの岸辺に漂着していた全長約2.5mの個体